

日本基督教団(以下「教団」)では、暦の上で10月第一日曜日を「世界聖餐日」と定めています。世界聖餐日というのは(諸説あるようですが)、第二次世界大戦直前、戦争へと傾斜していく対立する世界の中、アメリカのいくつかの教派の諸教会で守られるようになったのが始まりだと言われています。“国や教派は違えども、キリストの教会は一つであることを、共に聖餐にあずかることによって確認しようとした”ものです。以来、世界中の多くの教会が、全ての教会が一人の主イエス・キリストの一つの体であることを覚えて、共に聖餐にあずかる日とされています。

また「教団」では、この日を同時に世界宣教の日と定めています。これは、キリスト教会は主にあって一つであるのだから、世界宣教を共に担う祈りと実践の日として、戦後『世界宣教の日』としても定められるようになりました。現在、「教団」は北米はじめアジアやヨーロッパの諸教会から約100名の宣教師を迎えています。そしてそれと同時に、30名近くの牧師と信徒の宣教師を世界各地(アジア、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパの地域にある11カ国)に送り出しています。

日本にいる宣教師の働き、また海外の宣教師のことを心に留め、これからもその方々のために、共に祈りを合わせてまいりましょう。そしてそのように宣教師と連帯することは、同時にその人が遣わされている教会と連帯することであり、そうした祈りの交わりを通して、私たち自身が主にあって豊かにされていくのだと思います。

※ 海外に派遣されている宣教師・ご家族たちの働きや近況については、日本基督教団世界宣教委員会発行『共に仕えるために』や『教団新報』もしくは教団公式サイト内にある「宣教師からの声」からも知ることが出来ます。)